



ファーウェイ・ジャパン

サステナビリティ・レター

— 私たちができること —

2016 秋

通信が世界を拓く グローバルな環境で 学ぶ最先端 ICT



雑誌「オルタナ」に
ファーウェイ・ジャパンの
取り組みが
掲載されました

最先端のICT学ぶ

各国の学生とICTの未来を議論

ICTで社会課題を解決する

東北から熊本へ、支援のタスキつなぐ



9月9日に深圳本社で開かれた修了式で修了証を受け取った学生たち

通信が世界を拓く、グローバルな環境で学ぶ最先端ICT



世界で通信インフラを提供するファーウェイは、CSR活動の柱に「ICT人材の育成」を据えている。その取り組みの一つが「Seeds for the Future」だ。ファーウェイ・ジャパンは8月27日から9月10日まで中国・北京と深圳^{シンセン}でプログラムを実施。日本の学生20人のほか、ルーマニア、ニュージーランドからも参加し、ICTの最新動向を学んだ。



日本から「Seeds for the Future」に参加した20人の学生たち。ファーウェイ本社トレーニングセンターで

ファーウェイが目指す「A Better Connected World (より“つながった”世界)」——。この言葉が意味するのは、通信によって人々がつながるだけでなく、人とモノ、モノとモノ、これらすべてがつながっていく世界だ。ファーウェイは、より“つながった”世界の実現に向けて、5G (第5世代移動通信システム) や次世代製品の研究開発を進めている。

「すべてをワイヤレスにしたい」。そう語るのは、「Seeds for the Future」に参加した新潟大学工学部電気電子工学科4年生の黒瀬拓人さんだ。黒瀬さんは大学で通信技術を研究し、コードなしで電気を送る「ワイヤレス給電」の実験などを行ってきた。2016年3月には1メートル先に電気を送る実験に成功したという。所属する研究室では、ファーウェイと次世代の通信技術に関する共同研究も行っている。

黒瀬さんは、ファーウェイの技術に触れ、「世界で最も企業別国際特許出願が多く、チャレンジ精神を感じた。未来はもっと、いろいろなものがつながっていくだろう。5Gが実用化される2020年に向けて、自分の研究を生かしていけたら」と展望を語る。

■緑のキャンパスで最先端のICT学ぶ

鳥が鳴き、季節の花が咲く、緑あふれるファーウェイ本社。11ブロックで4万人が働いている。東京ドーム42個分、約200ヘクタールの広大な敷地には、ホテル、スポーツジム、3000室の社員寮などを併設している。

8—9月に開催された「Seeds for the Future」で、学生はファーウェイのビジネスや技術、世界のICTの最新動向などを学んだ。「Seeds for the Future」は、本社社員が講師を務めるICT研修と中国文化体験の2部で構成され、これまでに77カ国・地域から2000人を超える学生が参加した。

講義だけではなく、パソコンで自前のIP電話を設定し、電話を掛け合ったりする実習も行われる。より実践的なプログラムを

「Seeds for the Future」は実習の要素を多く取り入れ、より深い理解を促している





他国の学生と次世代通信技術やICTの未来などについて議論した

提供することで、理解を深めてもらうのが目的だ。開会式や修了式に参加した各国大使館のゲストらも、次世代のICTを担う学生を激励した。

世界では、2020年の5Gの商用化に向けて、研究開発や標準化の議論が進んでいる。IoT（モノのインターネット）化が加速するなかで、5Gはどのような役割を果たすのか。

「Seeds for the Future」のトレーナーを務めるファーウェイ社員は、「IoT化が進むと、デバイスが無数に増え、通信量が急増する。5Gは10Gbpsを超える高速通信（4Gの66倍）、低遅延（同50分の1）を実現する。IoTの発展と5Gの開発は切り離せない」と説明する。

第5回「サイエンス・インカレ」でファーウェイ賞を受賞した大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程1年の井澤英俊さんは、プロジェクトの被写界深度の拡張の研究を行っている。凹凸のある立体物にプロジェクトで投影した時に、焦点ボケのない鮮明な映像を映すための技術研究だ。サイズや場所にとらわれず、好きなときに好きな映像を投影することを目指す。

井澤さんは、「投影する映像をより鮮明にするには、通信の高速化が必要。研究分野は違っても、未来でつながっていく。次世代の通信技術を学んで刺激になった」と話す。

■各国の学生とICTの未来を議論

「Seeds for the Future」の魅力は、各国の学生との国際交流や中国文化を生で感じられるところにもある。プログラ

ムの前半一週間は北京で過ごし、中国語研修のほか、水墨画を描いたり、書道をしたりするなど中国文化を体験した。

9月3日には、深圳の電腦街（電気街）を視察。電気製品・電機部品などの小売店が並ぶ世界最大級の電気街だ。「中国はどんどん新しいものを作りだしている」（黒瀬さん）と楽しんだ。

「Seeds for the Future」では、それぞれの国のモバイルネットワークがどのように発展しているか、未来の通信技術、デバイスはどうかなどについて学生同士で議論。早稲田大学理工学術院基幹理工学部国際情報通信研究科4年の横山彩さんは、「講義中に海外の学生は自然に質問している。積極的に意見を言う姿勢を学んだ」と話す。

横山さんは、小型無人航空機ドローンを使った塗装技術を研究している。「ドローンはワイヤレスで自立飛行するため、高層ビルの塗装などに生かせれば、安全性も高くコストも減らせる。だが、電力消費量が大きく短時間しか飛行できない。黒瀬さんが研究するワイヤレス給電がドローンに活用できれば、用途はさらに広がっていく」と言う。いまは専門分野が違っても、参加した学生同士、未来でコラボレーションする可能性があるのも楽しみだ。

ワイヤレス社会で何ができるのか。デジタルネイティブ世代はすでに、自らが担い手になろうとしている。グローバルな環境で最先端のICTを学ぶことで、刺激を受け、次の技術を生み出す原動力が生まれる。次世代を切り開いていくICTの担い手に期待したい。



北京での中国文化研修では、水墨画にもチャレンジした

TOPICS 東北から熊本へ、支援のタスキつなぐ

ファーウェイ・ジャパンは復興支援活動の一環として、7月17日に開催された「チャリティー・リレーマラソン東京2016」に協賛した。2013年から支援を続け、今年は寄付金、Wi-Fiルーターなどの提供のほか、社員ボランティア5人が参加した。日本フィランソロピー協会（東京・千代田）が主催する「チャリティー・リレーマラソン東京」は、中学生による復興支援活動で、募金活動や駅伝形式のリレーマラソンを行う。今年は東北3県から6校、東京から10校、熊本から2校、合計119人の中学生が参加した。これまで支援される側だった岩手県大船渡市の中学生は、自主的に熊本支援の寄付金を集めたという。

伴走ボランティアとして参加したファーウェイ・ジャパンの社

員は、「被災地の力になりたいという思いで参加したが、中学生の元気な姿を見てこちらが励まされた」と嬉しそうだ。ゴール付近でボランティアを務めた社員は「いろんな地域の中学生に出会って刺激になった。来年も参加したい」と語った。



約32kmを駅伝方式で走り切った東北、東京、熊本の中学生たち

Seeds for the Future 2016



◆ [修了式] 次世代の担い手を激励

深圳本社で開催された修了式には、各国大使館からのゲストが出席し、次世代のICTの担い手である学生たちを激励した。このほか、日本、ルーマニア、ニュージーランド各国の学生代表がスピーチを行った。

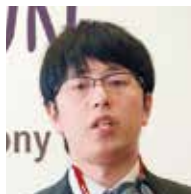
深圳は世界に羽ばたく出発点に



在中華人民共和国日本国大使館公使 林楨二さん

「2週間前、北京で皆さんにお会いした時は希望と不安が入り混じった表情でしたが、今日は自信にあふれています。深圳はさまざまな意味で『出発点』です。たとえば500社以上の日本企業が深圳に拠点を持ち、製品やサービスを世界市場へ送り出す出発点となっています。今回の『Seeds for the Future』に参加した若い皆さんにとっても、深圳は世界へと羽ばたく出発点となったことでしょう」

研究の新しい視点に



東京工業大学大学院理工学研究科電子物理工学専攻修士1年 澤内泰志さん

「Seeds for the Futureを通して、ネットワークの現状と未来を学んだことは、私の研究にも新しい視点をもたらしてくれました。また他の国の学生とアイデアを共有する良い機会となり、貴重かつ楽しい経験ができたことに心から感謝しています」

◆ [報告会] ICT でいかに社会課題を解決できるか

日本に帰国後、9月12日には報告会が行われ、ファーウェイ・ジャパン代表取締役社長のジェフ・ワンも出席した。学生20人は5グループに分かれ、中国・深圳本社で学んだことやICTでどのように社会課題を解決できるかについて発表した。交通渋滞が引き起こす健康被害やエネルギーの問題を取り上げたグループは、AI(人工知能)による自動運転によって渋滞を解消する案を示した。別のグループは出生率の低下を課題に上げ、女性が働きながら子育てができるように遠隔で子どもの診断ができるシステムやウェアラブルセンサーを赤ちゃんに取り付けることを提案。発表のQ&Aでは、倫理的問題はないのかといった質問が出され、活発な議論が行われた。

官民連携でイノベーションを創出



文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課課長補佐 新免寛啓さん

「人材育成は国づくりの根幹。文部科学省でもサイエンス・インカレをはじめ、さまざまな学生への支援を行っています。よりよい社会を創るためには、官民が連携し、多くのイノベーションを創出することが不可欠。国際的な環境で最先端のICT分野を学んだ貴重な経験と、人々との人脈を活かし、将来、世の中をより良くするために羽ばたいてほしいと願っています」

将来は途上国の発展に貢献したい



米子工業高等専門学校電気情報工学科5年 森田菜未来さん

「充実した設備の中、IP電話をつなげる実習は良い経験になりました。ニュージーランドやルーマニアの学生は積極的で、英語に対する取り組み方を見直す機会になりました。英語や技術を学び、将来は開発途上国で再生可能エネルギーの普及に携わる仕事をしたいです」

自分のキャリアを考える機会に



大阪大学薬学部薬科学科4年 生田遥さん

「ファーウェイ社員の方やメンバー、他国の学生と交流し、つながることができました。社員の方は自分のキャリアを考えながら働いていて、社内での教育にも力を入れているという話に印象的でした。私もこれから自分のキャリアをしっかりと積んでいきたいです」

Seeds for the Future の様子は、
ファーウェイ・ジャパン公式
フェイスブックページでも発信しました



About HUAWEI

ファーウェイ(中国語表記:華為技術、英語表記:Huawei)は、1987年に中国・深圳(シンセン)に設立された従業員持株制による民間企業で、世界有数のICTソリューション・プロバイダー。ファーウェイは通信事業者、企業、消費者の皆様に最大の価値をもたらすべく、競争力の高い製品やサービスを170カ国以上で提供し、世界人口の3分の1にもおよぶ人々のICTソリューション・ニーズに応えている。



華為技術日本株式会社 / 渉外・CSR部

ファーウェイ・ジャパン

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア ウェストタワー12階

代表電話番号: 03-6266-8008 代表FAX番号: 03-6266-8000

<http://www.huawei.com/jp/sustainability>



©華為技術日本株式会社

本誌掲載の写真・記事などのコンテンツにおける著作権は、弊社または弊社が利用許諾を受けた者に帰属します。弊社の承諾なしに、無断転載および転写を禁じます。

2016年9月発行